

「臨床整形外科」最優秀論文賞 2017 発表

「臨床整形外科」誌では最優秀論文賞を設け、整形外科領域に関する独創的で優れた論文を表彰することとなりました。昨年1年間(2017年、52巻)に掲載された投稿論文を対象に、編集委員会による厳正な審査のもと、下記論文の受賞が決定いたしました。

「関節リウマチ患者の PLIF 後には 疾患活動性に関係なく固定隣接椎間障害が高率に発生する」

藤原啓恭・小田剛紀・牧野孝洋・森口 悠・米延策雄・海渡貴司

(国立病院機構大阪南医療センター整形外科)

52 巻 1 号 : 39-48

■受賞のことば

このたびは「臨床整形外科」最優秀論文賞 2017 にご選出いただき、誠にありがとうございます。

今回われわれは、関節リウマチ(RA)患者に対する PLIF の臨床・画像成績に関して、非 RA 患者と比較するとともに、画像上の固定隣接椎間障害(ASD)発生率に着目して、その発生率が RA 疾患活動性制御に影響されるのか否かを検討しました。RA 患者における PLIF の画像成績は、固定椎間に関しては非 RA 患者とほぼ同等でありましたが、画像上 ASD 発生率は術後2年という短期において、RA 患者は 30%と非 RA 患者の 9%と比較し有意に高率であり、その発生率は RA 疾患活動性制御に影響されないと報告しました。本研究結果を、固定術を必要とする症例が比較的多い関節リウマチ患者に対する術式選択の一助としていただけますと幸いです。

本研究の実施には、米延策雄先生、小田剛紀先生、海渡貴司先生、大阪脊椎髄グループの先生方、大阪南医療センター整形外科の先生方、医師事務作業補助の方々に多大なご指導・ご協力をいただきました。また、吉川秀樹教授(大阪大学)には、平素より多大なご支援をいただいております。この場をお借りして御礼申し上げます。(藤原啓恭)



藤原啓恭氏

本論文は、2018年4月1日から2019年3月31日まで1年間、医学・看護の電子ジャーナルサイト「MedicalFinder」内において無料で閲覧いただけます。

受賞者には賞状と金一封、1年間の本誌冊子版と電子版閲覧権を贈呈します。なお、「臨床整形外科」最優秀論文賞 2018 は、53 巻 1~12 号(2018 年)掲載論文が対象となります。奮ってご投稿いただきますようお願い申し上げます。